

W cup (coup W)

アソー大会

競技ルール

1.4 版 (2013年5月6日)

計量、メディカルチェックについて

- ・計量は、試合前日に実施する。実施時間と場所については、別途提示する。また、前日の計量に参加できなかった選手については、当日朝集合後に実施する。
- ・メディカルチェックは、当日実施する。事前に配布したメディカルチェックシートに記載の上、提出すること。提出しない者や記載に偽りのある者は、試合への参加を認めないものとする。また試合後に記載に偽りがあることがわかった者については、試合結果の再判定もあり得るものとする。

レフェリーの号令について

- ・「アンギャルド (EN GARDE)」 構え
この号令が出たら、両選手はガードを上げて戦いの準備ができていることを示すこと。
- ・「アレ (ALLEZ)」 始め
この号令が出たら、両選手は組手を開始あるいは再開すること。
- ・「ストップ (STOP)」 止め
この号令が出たら、両選手は一旦組手を止めること。ストップの号令が出た後、アレの号令が出るまでは、試合時間のタイマーを停止する。
- ・なお、その他レフェリーの指示に従わない場合、その選手の選手資格を剥奪することがあり得る。

競技時間について

- ・競技時間については、原則として1ラウンドを90秒とし、3ラウンド行うこととする。
- ・ラウンド間にはそれぞれインターバルをとり、原則として各45秒とする。
- ・競技時間については、大会進行上の都合に応じて、実行委員会の判断で変更できるものとする。

セコンドについて

- ・各選手とも、最大2名までのセコンドをつけて良い。
- ・セコンドの言動については、選手が責任を持つこととする。
- ・セコンドは、各ラウンドの終了のベルが鳴った後、または試合終了のレフェリーの合図がされるまで、リングにあがってはならない。
- ・セコンドは、インターバル終了5秒前のタイムキーパーの号令を聞いた後、すぐにリングを離れなければならない。
- ・セコンドは、試合中、リングの中あるいは周囲に何も置いてはならない。
- ・セコンドによるアドバイスは、許可する。
- ・対戦相手や、相手のセコンド、また審判団を貶める発言を禁じる。これらの発言があった場合、選手へのペナルティとなり得る。またその結果、選手資格の剥奪になることもあり得る。
- ・もしセコンドが試合中直接的に選手に手を貸した場合、選手は即座に選手資格の剥奪となり、敗北が決定する。

また、セコンドにも何らかのペナルティを与える。

防具について

- ・コスチュームは、清潔であり、サバットをするのに適していること。
- ・ベルト、イヤリング、ピアス、チェーン、ネックレス、指輪などのアクセサリは、安全上の理由から禁止する。
- ・視覚補助の用具として、ソフトコンタクトレンズのみ許可する。使用にあたっては、メディカルチェックの際に事前に申告しておくこと。
- ・グローブは、大会側で貸し出すもの、あるいは各自で用意したものを着用すること。 着用するグローブのオンス数は、体重別に別表に定める。
- ・バンテージ、あるいは軍手、あるいはそれに類するものを着用すること。
- ・シューズは、底が2～5ミリ程度の厚さで平坦なもので、ヒールのないものとする。 また金属・プラスチック等の硬質な素材を利用していないものとする。
- ・シューズは紐靴とし、足首の後ろに結び目を作ることとする。その上で、テーピングを行い、固定を行うこと。
- ・コスチュームは、サバット用のコスチュームを着用する。あるいは上半身は体にフィットしたTシャツ、ラッシュガード、タンクトップなどを着用し、下半身は短パン、スパッツ、サテン地のロングキックパンツを着用することとする。上半身のシャツは、裾をズボンに入れることとする。
- ・コスチュームのデザインやカラーは自由であるが、見苦しくないものであり、また不道徳や不快な表現を避けたものであること。
- ・ヘッドギアについては、大会側で貸し出すもの、あるいは各自で用意したものを着用すること。各自で用意したものを着用する場合には、形状によっては利用を許可しないことがありうるため、事前にW cup 実行委員会に利用の可否を確認すること。また **Confirmé** の参加者については、ヘッドギアの着用は任意とする。
- ・マウスピース、フェールカップ、チェストガード（女性）、すねあては各自で用意し、着用すること。 すねあてについては、金属・プラスチック等の硬質な素材は禁止とする。

採点について

- ・採点については、大きく以下の2つの観点により行う。すなわち、「戦略・技術の観点」と、「命中した攻撃の点数」の観点である。
- ・戦略・技術の観点については、技やコンビネーションの多様性、防御の技術やカウンターアタックなどの要素を評価する。
- ・「命中した攻撃の点数」の観点については、以下のとおりである。
 - ・下段（脚部）へのキック 1点
 - ・中段（胴部）へのキック 2点
 - ・上段（頭部）へのキック 4点
 - ・いずれかの部位へのパンチ 1点 ただし1連の攻撃につき最大2点までである
- ・両観点を元にし、各ラウンドで以下のとおり各ジャッジがスコアを与える。
 - ・ドロー 両選手に2
 - ・優勢 優勢であった選手に3、相手選手に2

- ・圧倒 優勢であった選手に3、相手選手に1
- ・無効 両選手にX
- ・試合終了時に、各ジャッジの各ラウンドのスコアを合計し、勝者を決定する。また、試合中に与えられた各ペナルティについては、2ずつ減点する。

反則について

- ・以下に挙げる項目については反則とし、発生時にはレフェリーはストップの号令をかけ、警告あるいはペナルティを与えることがあり得る。
- ・強すぎる打撃は、反則である。アソー形式の試合では、攻撃は「Hit」ではなく「Touch」と表現されている。
- ・蹴り上げや踵落としのような、垂直的な蹴り技は反則である。
- ・相手の蹴りをすねで受けるのは、反則である。
- ・すね、ひざなど、靴以外の部位での蹴りは反則である。
- ・ひじ、裏拳など、グローブのナックルパート以外でのパンチは反則である。
- ・鼠径部への攻撃は、反則である。
- ・パンチによる背面への攻撃は、反則である。また、キックによる背面への攻撃は有効であるが、ただし脊椎への攻撃は、反則である。
- ・相手の蹴り足を掴むのは、反則である。
- ・相手を掴む、投げるのは、反則である。

KOの扱いについて

- ・アソーの試合では、強すぎる打撃を反則としているため、通常KOは発生しない。それでも試合中、強い打撃によるKOが発生した場合、その試合は無効試合とし、勝敗はつけない。ただし、故意でKOを狙った場合、その選手の選手資格の剥奪をし、敗北を決定することがあり得る。

その他

- ・本ルールに記載の無い事態が生じた場合、審判団と協議の上、代表者が判断し、対処する。
- ・試合を通じて本ルールの不備な点が明らかになった場合、今後の大会に向け実行委員会でルールを見直すこととする。

別表 グローブのオンス数について

階級	グローブ
女子 全階級	8オンス以上
男子 軽中量級 (～75kg)	10オンス以上
男子 重量級 (～85kg)	12オンス以上

(参考文献)

Book V. REFEREEING RULES INTERNATIONAL SAVATE FEDERATION
THE OFFICIAL GUIDE for the JUDGE, REFEREE & OFFICIAL DELEGATE of SAVATE

《変更履歴》

- 2011/03/17 1.0 版 新規作成
- 2011/04/07 1.1 版 ヘッドギアの着用について、国際試合経験者は任意である旨、記載。
- 2011/07/18 1.2 版 前日計量、シューズのテーピング、一般の部のヘッドギア任意、すねあての自前準備につき、修正。
- 2012/04/04 1.3 版 ヘッドギアの着用について、各自で利用したものの着用の許可につき、修正。
- 2013/05/06 1.4 版